



詩篇第一巻
詩篇12-17篇

詩12:-17:

2012.6.5

<p>13. ^{目と口}喜歌. 敵が舌. 敵が勝つ語子.</p>	<p>12. 舌唇. 聖徒なし 悪者が勝つ語子</p>	<p>高ぶる者. 主を恐る者.</p>
<p>15 舌口. 聖山の人. 正行者は聖山に住む</p>	<p>14. 喜楽 ^{天から見} 善人なし 主を信ずる者は救わぬ子.</p>	
<p>17 口語. 口唇. 正しい者が救わぬ子 悪者が救わぬ子.</p>	<p>16 喜楽. 喜幸 聖徒は主と比べに住む. 高ぶる.</p>	

詩篇第1巻の第2集、12篇から18篇。その前半の12篇から17篇。「主は受ける分です」という段落だと考えています。

地の悪者たちが天におられる主に逆らっているということで、12,13,14,15という4つの並行、その4つが16,17という長めの詩篇とまたさらに並行していると思われるでしょう。

12,15は、舌、唇。舌と口で正しいことを言う者と、汚れたことをいうこと、舌で勝つことができると悪者がほこっているということ。17篇に口と舌がまた出てきます。

13篇と14篇、ここで終わりのところで喜び歌うことで終わっている。正しい者たちが喜び楽しむことで終わっているのですけれども、13篇は神様に天から目を注いで見てください、裁いてください。14篇のほうも天から神様が見たときに、善人がいない、義人はいない、一人もいないという状態になっています。神はいないと彼らが言っているということです。16篇も喜び楽しむ、神様の前で喜び楽しみ、幸いは主の他にはないということですので、13,14と16というつながりがあります。

詩12:-17:

2012.6.5

13. ^{目を見} 喜歌. 敵が岩. 敵が勝つ者.	12. 舌唇. 聖徒なし 悪者が勝つ者.	高ぶる者.
15. 舌口. 聖山の人. 正行者は聖なる山に住む	14. ^{天から見} 喜楽. 善人なし 主の命は救われる.	主を恐る者.
17. 口語. 口唇.	16. 喜楽. 喜幸	
正しい訴えが聞かれる 恐れが救われる.	聖徒は主と共に住む 高ぶる.	

12篇と13篇を見ると、悪者が勝ちほこる、敵が勝ちほこるという段落です。それに対して14篇と15篇は主を呼ぶ者は救われる、正しいことを行う者は聖なる山に住むことができるようになるということで、高ぶる者たちと主を恐れる者たちという並行もあります。

12,13の高ぶる者たちというものに対しては、裁きが来るわけですが、14,15の人たちは、神様と共に住むようになりますというのが救いですので、それが16篇に書かれている。聖徒は主と共に住んで結局のところ、こちらの人たちが高くされるということです。

17篇のほうでは、目を注ぐ、天から見下ろすというつながりで、正しい訴えが聞かれる。17篇の最初と最後ですね、正しい訴えを聞いて裁いてくださるという神様のことが書かれていて、敵を恐れることから救われる、悪者の恐れから救われるというのが17篇です。

12篇から17篇まではいろいろな並行があって、その並行で見なければいけないのですが、さらに18篇の全体の流れの分析すると、18篇の後半、6節から45節までを4つに分けたものと、12篇から15篇までがまた並行していると見ます。その中でもみことば、主のことばについて、天から神様が答えることについて、敵を滅ぼすこと、正しい聖い行いについて、この4つについてはまた同じように18篇でも言われている話になっています。

全体としては、偽りの舌が断ち切られて主を喜び楽しみ歌うように変えられる。地の悪者が天の主にならうけれども、私たちの受ける分は主であるというのがこの12篇から17篇までのテーマだと思われます。